国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

令 和 6 年 4 月 1 日
札 幌 開 発 建 設 部

令和６年度北海道開発事業費

（札幌開発建設部実施分）の概要について

令和６年度北海道開発事業費（札幌開発建設部実施分）について、別紙のとおりお知らせします。

【問合せ先】　国土交通省　北海道開発局　札幌開発建設部

全体	広報官	多積　浩大	（電話番号 011-611-0279 ダイヤルイン）
河川関係	河川計画課長	森田　共胤	（電話番号 011-611-0329 ダイヤルイン）
道路関係	道路計画課長	佐藤　文俊	（電話番号 011-611-0239 ダイヤルイン）
空港関係	空港対策官	福本　貴則	（電話番号 011-611-0273 ダイヤルイン）
公園関係	道路防災推進官	佐藤　英樹	（電話番号 011-611-0246 ダイヤルイン）
農業関係	農業整備課長	佐藤　禎示	（電話番号 011-611-0247 ダイヤルイン）

札幌開発建設部ホームページ　https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/

令和６年度

北海道開発事業費
（札幌開発建設部実施分）の概要について

令和６年４月

札 幌 開 発 建 設 部

目　　次

Ⅰ　札幌開発建設部事業費総括表　……　１

Ⅱ　札幌開発建設部関係事業概要（事業別）

１　治水関係事業　……　２

２　道路事業　……　１２

３　空港整備事業　……　２１

４　国営公園事業　……　２２

５　農業農村整備事業　……　２３

令和６年度　札幌開発建設部事業費総括表

（事業費）　　（単位：百万円）

事　　項	予　算　額	備　　考
治　　水	42,563	
道　　路	38,899	
空　港　整　備	2,958	
都市水環境整備	62	
国　営　公　園　等	997	
農業農村整備	18,211	
合　　計	103,691	

注）1．農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。
　　2．四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

令和６年度の主な河川事業（石狩川下流）

近年頻発する水害・土砂災害を踏まえ、第９期北海道総合開発計画に基づき、生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりに資するため、気候変動に伴い激甚化する水災害に対する北海道の地域特性を踏まえた流域治水やグリーンインフラの考えを取り入れたインフラ整備を推進します。

また、四季折々の川の自然環境や景観、水辺活動やサイクリング環境等、川に関する情報を効果的に発信するとともに、地域と連携した魅力的な水辺空間の創出等により、地域づくり・観光振興に貢献する「かわたびほっかいどう」プロジェクトを推進します。

川へ行こう！　川を楽しもう！
かわたび ほっかいどう
KAWATABI HOKKAIDO

○石狩川下流域の河道掘削、築堤等の河川整備
○堤防除草や河川巡視・点検、河川構造物の補修・設備の更新
○構造物の安全性を確保する応急的な改善
○既設多目的ダムの施設点検・補修、設備更新
など

ー　石狩川　北村遊水地整備　ー

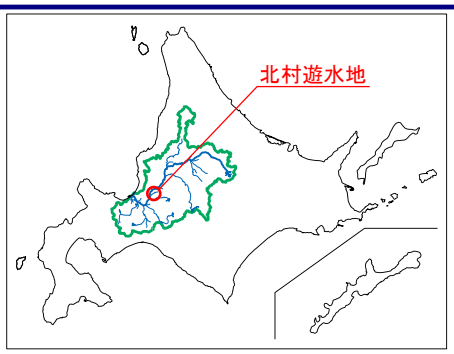
石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中枢となっているほか、流域内の広大な農地は我が国有数の食料供給地です。

昭和５６年８月洪水時には、１１箇所の堤防が破堤するなど、氾濫面積６１４km^2、被害家屋約２２，５００戸におよぶ甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するために北村遊水地等の整備を推進します。

≪北村遊水地≫

- ○事業箇所　：　岩見沢市、月形町、新篠津村
- ○事業期間　：　平成２４年度～令和１２年度
- ○遊水地面積　：　９５０ha（遊水地単独の面積では、全国で３番目の大きさ）
- ○洪水調節容量　：　４，２００万m3
- ○主な整備内容　：　周囲堤、囲ぎょう堤、越流堤、排水門、用地・補償など
- ○令和６年度実施内容：　囲ぎょう堤、周囲堤、排水門、補償

■昭和56年8月上旬洪水
石狩川流域浸水実績図



創成川　市街地の浸水状況
（札幌市・昭和56年8月洪水）

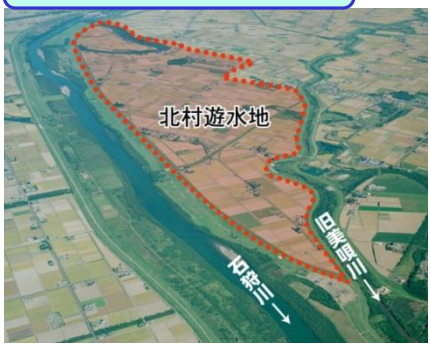
石狩川右岸 下新篠津築堤付近の氾濫状況
（江別市・昭和56年8月洪水）

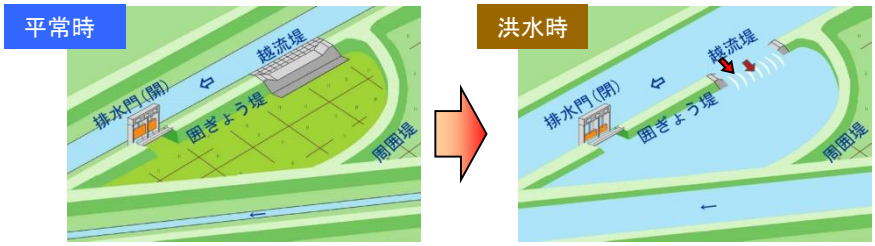
昭和５６年洪水からこれまでの対応

- ・石狩川では、昭和56年洪水を対象とした築堤・掘削等の河川改修を推進
- ・千歳川流域においては、支川及び石狩川本川の洪水調節に効果を発揮する千歳川遊水地群等の整備を推進（遊水地群は令和2年度供用開始）

北村遊水地より上流部の河川改修を更に推進するには、河川改修による流量増をカバーする**洪水調節施設が必要**

北村遊水地の整備





平常時は農地として利用　　洪水時は遊水地として利用

洪水の一部を遊水地に貯留し、洪水時に川の水位を下げる。

■北村遊水地等の整備によって、昭和56年洪水対応が完了し、石狩川下流域の浸水被害を解消。

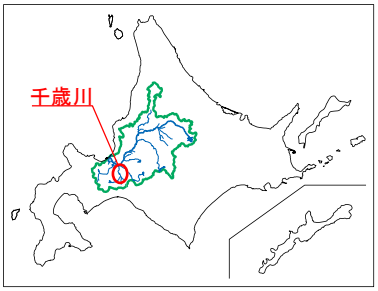
ー　千歳川流域の治水対策　ー

千歳川の中下流部は広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を長い区間に亘り長時間受けるなど水害が起きやすい特性を有しています。

特に、昭和５６年８月上旬洪水は未曾有の大洪水となり、氾濫面積１９２km^2、被害家屋２，６８３戸におよぶ甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するため、千歳川河川整備計画に基づき、石狩川の高い水位の影響を長時間受けることに対応した堤防の整備や遊水地群の整備等を推進しており、遊水地群については令和2年度よりすべての遊水地で供用を開始しています。また、流域治水を本格的に実践するため令和5年度に特定都市河川流域に指定したことから、河川整備の加速化に加え、流域における雨水流出抑制対策等を法的枠組みのもと推進し、地方公共団体等による流域対策と併せて早期に千歳川流域における水災害への安全性の向上を図ります。

〇令和6年度実施内容　　堤防整備、用地・補償など

千歳川流域の現状



S56年8月上旬洪水（長沼町浸水状況）

千歳川の中下流部には広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を、長い区間にわたり長時間受けることから、

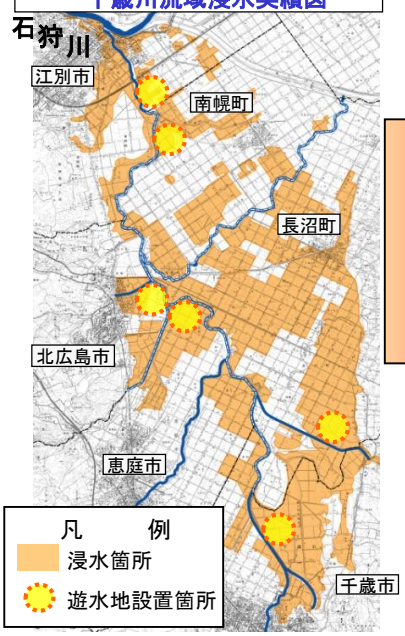
◆破堤等の危険性が高い。

◆雨水の排水が十分にできない。

などの課題を有する。

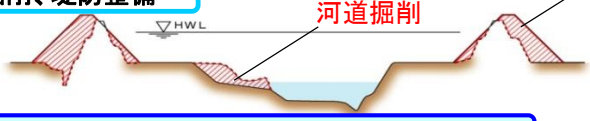
千歳川流域の治水対策

■S56.8上旬洪水
千歳川流域浸水実績図



治水対策の実施

河道掘削、堤防整備

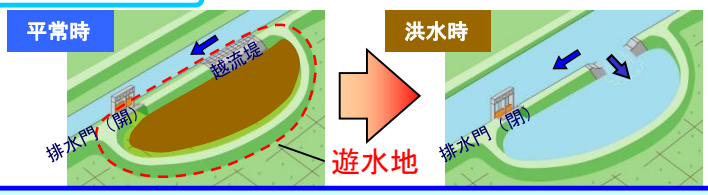


川の断面を拡幅し、洪水時の水位を下げる。

堤防の断面を大きくし、洪水時に長時間続く高い水位に対応する。

遊水地群の整備

※令和2年度より全ての遊水地で供用開始



洪水の一部を遊水地に貯留し、洪水時に川の水位を下げる。

内水対策・流域対策の促進

※令和5年度より特定都市河川流域に指定
流域治水を本格的に実践

開発に伴う調整池の設置などの流出抑制対策、内水対策、
洪水被害軽減策等を関係機関が連携して推進する。

■　昭和56年8月上旬洪水により想定される浸水被害を大幅に解消

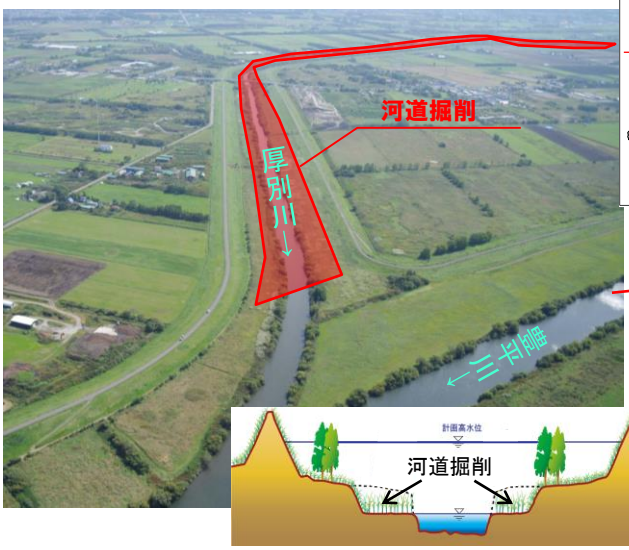
ー札幌市の甚大な被害を防止・軽減するための治水対策（豊平川）ー

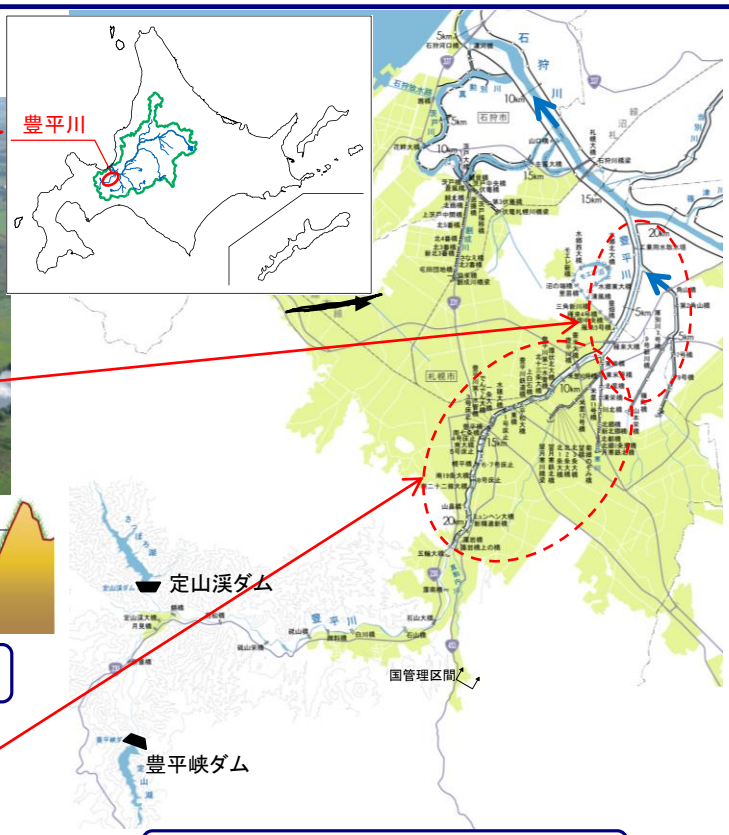
札幌市は北海道の社会、経済の中枢となっており、その中心部を貫流する豊平川の背後には市街地が広がるほか、国道などの重要な交通網や資産を有しています。

こうした背景のもと、ひとたび氾濫した場合には、中心市街部に甚大な被害が発生するとともに、都市機能を麻痺させるおそれがあります。そのため、豊平川本川・支川において流下能力が不足している箇所の河道掘削や河道内樹木の管理などのハード対策を実施するとともに、札幌市等と連携しつつ各種訓練や情報共有化等のソフト対策が一体となった治水対策を推進します。

〇令和6年度実施内容　河道掘削、河道内樹木の管理など

河道掘削による流下能力の確保





河道内樹木の管理（伐採による流下能力の確保）

各種訓練や情報共有化等のソフト対策

石狩川下流域外減災対策協議会 豊平川外地域部会実施状況
（参加機関　札幌市、石狩市、当別町等　8機関）

水防工法訓練状況

ホットライン伝達訓練

平成30年度石狩川水系豊平川総合水防演習実施状況

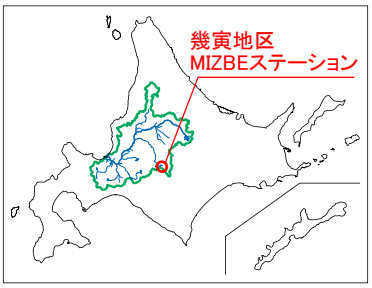
新規

ー　幾寅地区MIZBEステーション　ー

石狩川の支川である空知川では、平成28年8月の洪水により南富良野町幾寅地区で空知川の堤防が決壊し、農地が冠水するほか、市街地が浸水する被害が発生しました。

この洪水被害を解消するため、堤防の整備や河道掘削を行うとともに、災害時の水防活動や災害復旧の拠点として河川防災ステーションの整備を河川整備計画に位置付け推進しています。近年では平時に施設の上面を市町村等の取組により、地域活性化や賑わいの創出が期待される河川防災ステーションをMIZBEステーションとして登録しており、幾寅地区では北海道内では初めて登録された施設となり北海道開発局と南富良野町が連携し施設の整備を推進するとともに、地域の活性化につながる賑わいのある河川空間の創出を目指し「南富良野町かわまちづくり」の取組も推進します。

○令和6年度実施内容　　盛土造成、水防センターなど



空知川幾寅地区の堤防決壊氾濫状況

南富良野町市街地の浸水状況

（H28年8月洪水）

整備イメージ

平時利活用のイメージ

－幾春別川総合開発事業－

幾春別川下流部は豊かな農地として利用され、上流部には深い山々に囲まれた桂沢湖があり、川が刻んだ周囲の渓谷からは、貴重な化石が出土しています。また、流域内には道央圏と上川地域を結ぶ基幹交通施設が位置するなど交通の要衝となっており、洪水災害から地域社会を守るため、幾春別川総合開発事業を推進します。

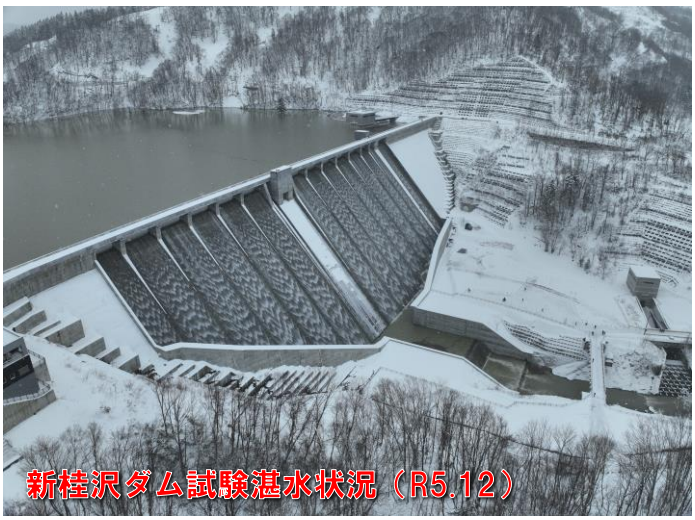
新桂沢ダムは、昭和３２年に完成した北海道の直轄多目的ダムである桂沢ダムを約１２m嵩上げする再開発ダムであり、令和５年度に完成しました。

三笠ぽんべつダムは、幾春別川の支流である奔別川において新たに建設される治水専用ダムであり、令和４年度より本体工事を実施しています。

〇目的

- 洪水調節（幾春別川、石狩川の洪水防御）
- 流水の正常な機能の維持
- 水道用水の供給（桂沢水道企業団（岩見沢市、三笠市、美唄市）0.1m3/s）
- 工業用水の供給（北海道企業局 0.149m3/s）
- 発電（電源開発（株）最大17,290KW）

〇令和６年度実施内容　：　本体工事（三笠ぽんべつダム）、旧橋撤去　等


新桂沢ダム試験湛水状況（R5.12）

三笠ぽんべつダム完成予想図

－雨竜川ダム再生事業－

雨竜川流域には深川市、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町、幌加内町の１市６町があり、土地利用としては水田・畑等の農地が約１８%、宅地等の市街地が約１%、その他山林が８１%となっています。上流域ではそばの栽培が盛んであり、その品質は高く、全国の１等格付けそばの９割以上の産地が雨竜川流域となっています。また、下流域の平地では水稲の栽培が盛んであり、農業が流域全体の基幹産業となっています。さらには、国道２３３号、国道２７５号などの基幹交通施設が位置するなど、交通の要衝となっています。

雨竜川ダム再生事業は、昭和１８年に完成した発電専用ダムである雨竜第１ダムと雨竜第２ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保するものです。洪水災害から地域社会を守るため雨竜川ダム再生事業を推進します。

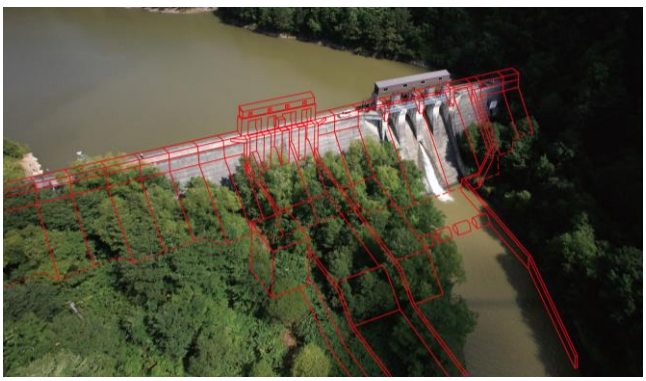
〇目的

- 洪水調節（雨竜川、石狩川の洪水被害防御）
- 発電（北海道電力（株） 最大51,000kw）

〇令和６年度実施内容　：　本体工事、工事用道路工事　等

雨竜第1ダム

雨竜第2ダム



かさ上げイメージ（雨竜第2ダム）

ー　石狩川水系豊平川直轄砂防事業　ー

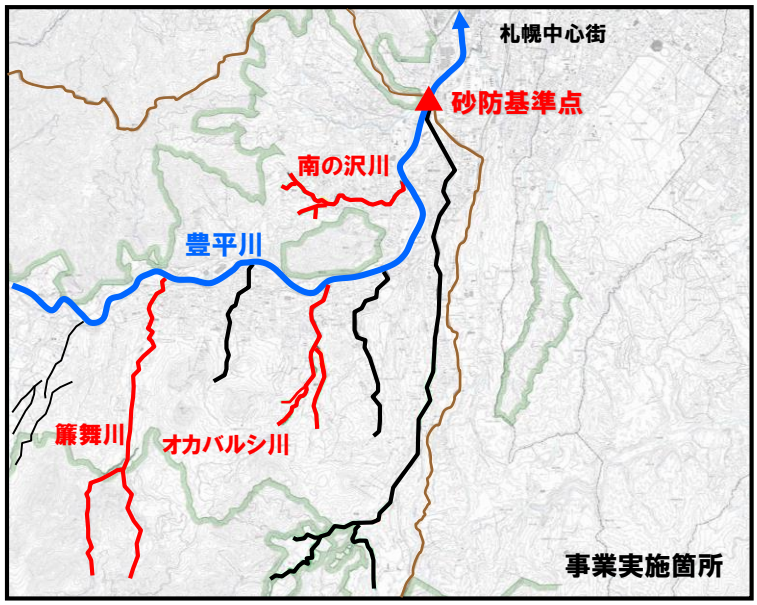
札幌市は北海道の社会・経済・文化の中心であり、その中心部を貫流する豊平川の背後には市街地が広がるほか、国道などの重要交通網や要配慮者利用施設などが集積しています。ひとたび氾濫した場合には、中心市街部に甚大な被害が発生するとともに、都市機能を麻痺させるおそれがあります。

また、札幌市街地は豊平川の扇状地上に形成されており、昭和56年洪水では、豊平川本川河道に流出した堆積土砂による河床上昇のため、堤防付近を高速流が流れる大変危険な状態になりました。幸い、豊平川本川では堤防決壊には至りませんでしたが、上流域の河岸段丘や支川沿いの市街地では、土石流や渓岸侵食により死者1名を含む甚大な土砂災害が発生しました。これらを契機に、翌昭和57年より直轄砂防事業による砂防設備の整備を進めています。

○事業効果

砂防堰堤や床固め工等の砂防設備の整備により、下流への土砂流出や堆積土砂の再移動を抑止し、豊平川本川の土砂・洪水氾濫被害を軽減するとともに、市街地や重要交通網、要配慮者利用施設などの資産を土石流等の土砂災害から守ります。

○令和6年度実施内容　　砂防堰堤工等



昭和56年　豊平川堆砂状況（南19条大橋付近）

昭和56年災害　オカバルシ川被災状況

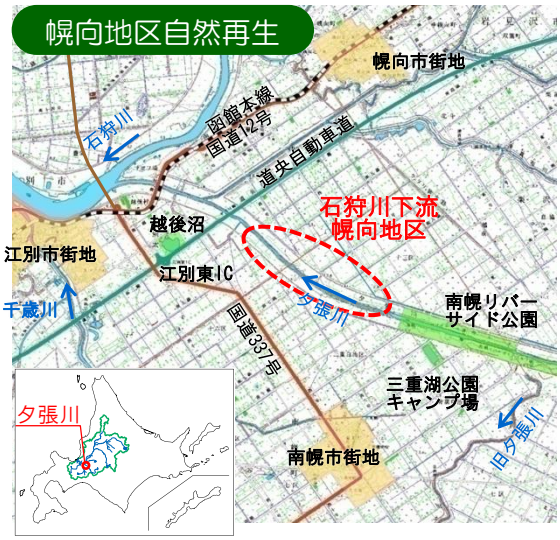
砂防堰堤工完成状況（既設堰堤改良）
【南の沢川2号堰堤　令和5年3月完成】

ー 総合水系環境整備事業【石狩川下流地区】（自然再生） ー

かつて石狩川下流域の各地で広範囲に分布していた高層湿原は、流域の発展に伴って大きく減少しました。その高層湿原の一つである幌向原野の名残が、夕張川幌向地区の高水敷の一部に残存していますが、基盤となる高位泥炭の乾燥による分解が進行している状況です。

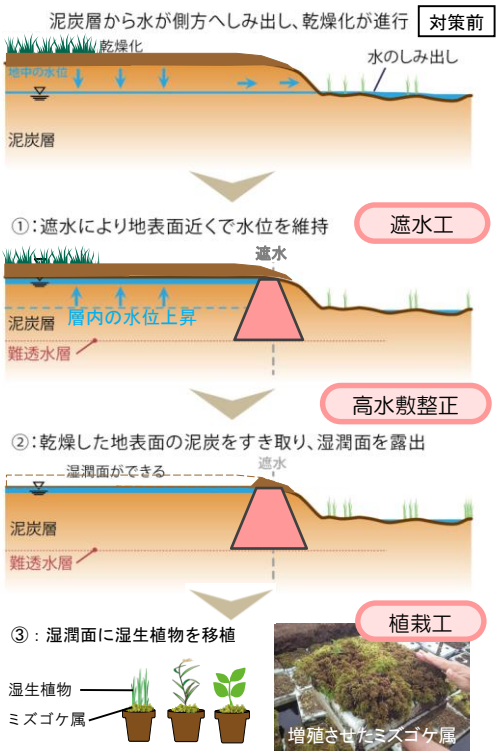
かつての幌向原野のような高層湿原を再生し、地域活性化に資するため、夕張川の高水敷に分布する高位泥炭を活用し、多様な湿生植物の生育環境の保全・再生を図ります。

〇令和6年度実施内容　モニタリング



湿原再生のための整備

泥炭層の乾燥化を防ぐため、泥炭層からの水のしみ出しを抑制し、地中の水位を安定させて湿生植物が生育できるように整備。



ほろむい七草

ホロムイリンドウ

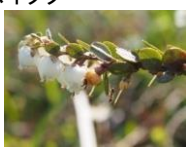
ホロムイイチゴ

ホロムイクグ

ホロムイコウガイ

ホロムイスゲ

ホロムイソウ


ホロムイツツジ

湿生植物移植

地元NPOのフットパス行事参加者による湿生植物移植

移植した湿生植物が定着し、開花

かわたび北海道の一環として、観光ツアーを誘致

継続

ー 総合水系環境整備事業【石狩川下流地区】(かわまちづくり) ー

河川空間を活用した地域活性化のため、砂川遊水地、漁川（道と川の駅　花ロードえにわ隣接地）、江別市（江別河川防災ステーション隣接地）及び南富良野町（MIZBEステーション・道の駅南ふらの近傍）において、地元自治体と連携して「かわまちづくり」を推進します。

砂川地区：砂川オアシスパーク（砂川遊水地）を活用し、アウトドアスポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として親水護岸や管理用通路等の整備を行います。また、民間事業者等による営業活動を可能とし、砂川のスイーツや観光情報の発信拠点として整備します。

恵庭地区：管理用通路の整備等を通じて公園や市街地との連続性を向上させるとともに、親水施設の整備によって良好な水辺空間を創造し、観光地の魅力や居住環境の向上を図ります。

江別地区：千歳川の石狩川合流点付近で水辺整備を行い、水辺・周辺の歴史的建造物・まちをつなぐことで、まちなかの回遊性・親水性を高め、賑わいの創出による地域の活性化を図ります。

南富良野地区：MIZBEステーションや近傍に位置する道の駅「南ふらの」と空知川が一体となった水辺整備を行い、広域観光・まちづくりによる賑わいの創出と幾寅地区を含む南富良野町の地域活性化に寄与することを目指します。

〇令和6年度実施内容 【砂川地区かわまちづくり】 モニタリング　【南富良野町かわまちづくり】 詳細設計等
【恵庭かわまちづくり】 モニタリング
【江別市かわまちづくり】 高水敷整正等

砂川地区かわまちづくり

親水護岸や管理用通路等の整備と、都市・地域再生等利用区域指定による水辺の賑わいづくり

砂川スイーツが結ぶ　まち・人・水辺

■:国交省
■:砂川市・協議会

恵庭かわまちづくり

恵庭市による花の拠点整備と連携し、良好な水辺空間を創造

花のまち恵庭で広がる、水辺の観光拠点と次世代住環境

花の拠点
「道と川の駅」の後背地に、カフェ等を備えた「花の観光拠点」を整備

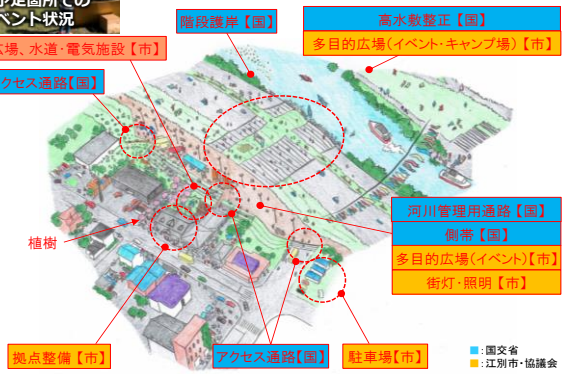
■:国交省
■:恵庭市

かわゾーン
管理用通路の整備による漁川への連続性改善や、親水施設の整備

江別市かわまちづくり

水辺・周辺の歴史的建造物・まちをつなぐことで、まちなかの回遊性・親水性を高め、賑わいを創出

イベント・キャンプ・歴史文化も楽しめる駅チカ水辺広場



南富良野町かわまちづくり

MIZBEステーションや道の駅「南ふらの」と空知川が一体となった水辺整備による広域観光・まちづくりによる賑わいの創出

森と湖のポテンシャルを活かしてアウトドア観光の拠点に

令和６年度　道路事業

１．北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

（１）広域分散型社会を支える高規格道路ネットワークの整備

広域分散型社会を形成している北海道において、食・観光等の基幹産業を支えるとともに、国土の強靭性を確保し、地域間の連携強化を図るため、道央圏連絡道路における「中樹林道路」の令和６年度開通と「長沼南幌道路」の早期開通を目指し、重点的に推進します。

道央圏連絡道路　中樹林道路（南幌町）

道央圏連絡道路　長沼南幌道路（長沼町）

〈高規格道路〉道央圏連絡道路　中樹林道路【令和６年度全線開通予定】

（２）広域分散型社会を支える交通ネットワークの形成

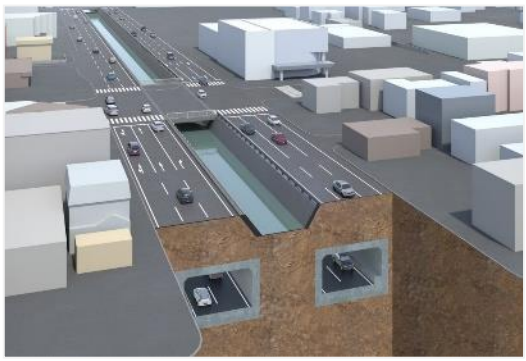
北海道新幹線札幌延伸を見据え、道内各地を結ぶ高速道路と札幌都心とのアクセス機能を強化する「国道５号 創成川通」、札幌駅周辺における交通結節機能を強化する「札幌駅交通ターミナル整備」の事業を推進します。

＜道内各地を結ぶ高速道路と札幌都心とのアクセス強化＞

○札幌都市圏は、北海道全体に及ぶ中枢管理機能や他の基礎圏域では提供できない高次都市機能を担っています。

○一方、同規模の政令市に比べ、都心と高速道路のICとの距離が遠く、空港や道内各地域とのアクセスに課題があります。

○北海道全域との広域的な交流・連携機能の確保を目指し、高速道路へのアクセス道路の整備を推進します。

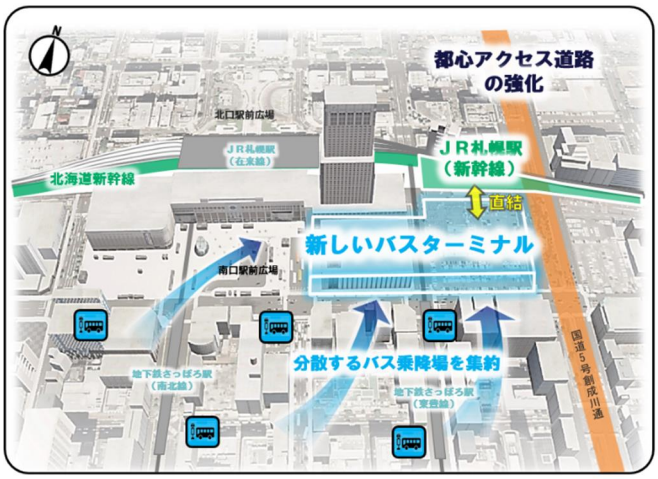


国道５号　創成川通（札幌市）
整備イメージ

＜札幌駅周辺における交流拠点整備＞

○札幌の玄関口にふさわしい空間の形成と高次都市機能・交通結節機能の強化を目指し、新しいバスターミナルの整備を推進します。

○平常時は快適で利便性の高い待合空間、災害時は避難者の受入空間の確保等により防災拠点として寄与します。



都心アクセスの強化

・都心アクセス道路（国道５号創成川通）の整備により、交通混雑、交通事故の低減を図り、都市機能を最大化

新幹線駅との連携

・北海道新幹線札幌駅と一体的に整備

・東改札口及び交通広場を整備し、新たな公共交通システム等の二次交通と接続することで、一大交通結節点を形成

新しいバスターミナル

・都市間バス、路線バスを集約するバスターミナルを整備

・札幌駅周辺において新たなモビリティ等多様な交通モードとの連携により交通結節機能を強化

待合空間のイメージ（平常時）

バス乗降空間のイメージ（平常時）

札幌駅周辺の帰宅困難者の様子
（平成３０年９月６日
北海道胆振東部地震時）

２．多様で豊かな地域社会の形成

＜「生産空間」の維持・発展に資する「道の駅」の機能強化＞

地方部の「生産空間」を支える都市機能・生活機能の維持・確保を図るため、日常的な生活サービス機能を「道の駅」に集約するなど、地域の拠点づくりを支援していきます。

○「道の駅」の交通結節点化など、地域の拠点化に向けた多様な取組を推進していきます。

○親子で滞在しやすい子育て環境創出のため、子育て応援施設の整備を推進します。

○日本政府観光局（JNTO）外国人案内所の認定取得や、多言語による観光地案内・道路情報提供の充実等の取組を推進します。

子育て応援施設整備の例：
妊婦向け屋根付き優先駐車スペース
（道の駅「あいろーど厚田」）

道の駅整備　観光案内所設置
（道の駅「スタープラザ芦別」）

３．観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

＜「シーニックバイウェイ北海道」の推進＞

シーニックバイウェイ北海道は、地域と行政が連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを行う取組です。平成１７年度より開始し、札幌開発建設部管内では「支笏洞爺ニセコルート」「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート」「空知シーニックバイウェイ－体感未来道－」（候補ルート）が活動しています。

また、道内各地の活動団体がお薦めする特に魅力ある景観等を有する道路を１２区間認定し、景観の維持・形成や誘客に向けた情報発信等を重点的に実施します。また、令和５年から「秀逸な道」看板を順次設置しており、北海道のドライブ観光をより一層促進します。

支笏洞爺ニセコ ルート（国道４５３号）

秀逸な道　現地看板

＜サイクルツーリズムの推進＞

世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、石狩・空知・上川地域の全長約３３３ｋｍに及ぶ「石狩川流域圏ルート」、石狩・留萌地域の全長約２９０ｋｍに及ぶ「石狩北部・増毛サイクルルート」において、安全で快適な自転車走行環境の改善やサイクリストの受入環境の充実、情報発信の取組を推進します。

自転車走行の状況

自転車走行環境の整備

サイクルラック設置
（道の駅「あいろーど厚田）

４．生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくり

（１）災害からの迅速な復旧を支える道路交通ネットワークの耐災害性強化

地震・津波による被害や社会的影響を最小限に抑えるため、代替性確保のための高規格道路の整備や緊急輸送道路上の橋梁の耐震補強、道路斜面や盛土等の防災対策を推進します。

また、「防災・減災、国土強靭化のための５か年加速化対策」（令和２年１２月閣議決定）を踏まえ、「防災・減災、国土強靭化に向けた道路の５か年対策プログラム（北海道ブロック版）」を令和３年４月に策定し、耐災害性の強化や災害時におけるネットワーク確保のため防災震災対策や高規格道路のミッシングリンク解消を推進します。

・橋梁や道路の流失、土砂災害、電柱倒壊等による道路の通行止めのリスク解消や津波や洪水からの避難場所確保のため、河川に隣接する道路構造物等の流失防止対策や法面・盛土対策、無電柱化、盛土等を活用した避難施設の整備を実施します。

道路の防災・震災対策
（法面対策）

道路施設の老朽化対策
（橋梁補修）

（２）防災、歩行空間の確保、景観の向上に資する無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から実施している電柱の新設抑制及び無電柱化について、低コスト技術を積極的に導入しつつ、スピードアップを図ります。

無電柱化の整備（国道１２号札幌市白石区）

（３）社会経済活動を支える道路施設の老朽化対策

道路施設が有する機能を長期にわたって適切に確保するため、各施設に応じた点検及び計画的・効率的な維持管理を図り、適切な老朽化対策を推進します。

道路施設の老朽化対策（橋梁点検）

（４）冬期交通の確保

冬期の安全・安心を確保するため、冬期災害に備え、代替性確保のための高規格道路の整備、国道における防雪対策、防災訓練や住民の意識啓発等を推進します。また、大雪・暴風雪時の取組として、道路管理者間で連携した高速道路通行止め時の並行路線対策やラジオ放送・SNS を活用した情報発信、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊：リエゾン[注)] を含む）の派遣による自治体支援などを、円滑かつ迅速に、きめ細やかに実施します。

（注：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員）

除雪作業の状況

石狩・空知地方道路防災連絡協議会
（ＷＥＢ併用開催）

（５）交通安全対策の推進

事故多発区間での事故データを用いた分析やビッグデータを活用した潜在的危険区間の分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する「事故ゼロプラン」※を推進するとともに、自転車事故の危険性が高い区間については、自転車走行空間整備を計画的に推進します。

また、通学路においては、令和３年６月に千葉県八街市で発生した事故を受けて実施した通学路合同点検の結果に基づき、安全対策を推進します。

※事故ゼロプラン：交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組

通学路における交通安全対策
（国道３６号　千歳市）

単路部における交通安全対策
（国道４５３号　恵庭市）

（６）除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組（i-Snow）

人口減少や高齢化が進む中、除雪機械の熟練オペレータの高齢化や担い手不足など、除雪を取り巻く課題の解決のため、準天頂衛星「みちびき」と「高精度３D マップデータ」を活用した運転支援ガイダンスや、投雪作業自動化の実証実験・実働配備を行っています。

機械操作の自動化により、２名体制で行う除雪機械の運転操作が１名体制でも可能となり、人口減少下でも必要な除雪サービスを維持します。

■機械操作の自動化

- 投雪作業の自動化について、令和４年度から実働配備を開始、令和５年度より実働配備拡大。
- 準天頂衛星「みちびき」通信電波の不感地帯対策について検討を継続。
- 自動操作対象機械拡大の検討。

除雪現場の省力化イメージ

『除雪装置自動制御付』ロータリ除雪車

■吹雪時の映像鮮明化技術

- 吹雪等の視界不良時でも約 100m 先まで視認が可能となり、安全に除雪作業の継続が可能
- 令和３年度から全道へ実働配備を開始。今後も配備を拡大。

元映像　　鮮明化処理

映像鮮明化＋AI を活用した物体検知・警告

（７）「道の駅」の防災拠点化

近年、激甚化・頻発化する自然災害に備え、各地で広域的な復旧・復興活動の拠点整備が進められており、地域防災計画に位置付けられた「道の駅」において、地域の防災力向上に資する防災拠点の整備や機能向上を図っています。

令和３年６月には地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置付けられている道の駅のうち、４駅を「防災道の駅」に選定しています。また、広域災害応急対策の拠点となる防災機能を有する「道の駅」の駐車場を「防災拠点自動車駐車場」として指定しており、令和６年３月末時点で北海道内では３６駅を指定しています。

「防災道の駅」をはじめとする地域防災計画に位置付けられた「道の駅」においては、更なる防災機能強化に向けて、BCP に基づく防災訓練等について重点的に支援していきます。

防災機能強化の例：防災訓練
（道の駅「スタープラザ芦別」）

防災機能強化の例：防災訓練
（道の駅「たきかわ」）

５．地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

再生可能エネルギーの導入拡大、脱炭素化等の取組

地球温暖化防止が重要な政策課題となっている中で、北海道の豊かな自然や地域資源を活かしてグリーン社会の実現を主導していくことが求められています。ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組を推進し、持続可能な脱炭素社会の形成を図ります。

〇令和４年４月に北海道開発局・北海道経済産業局・北海道地方環境事務所・北海道によるワーキングチームを設置し、道の駅設置者である市町村や道の駅管理者と連携し、「道の駅」に急速EV充電施設の設置を目指します。

〇CO_2 削減に大きく寄与する道路ネットワークの整備、渋滞対策等を推進します。
令和３年度から令和７年度までの直轄国道の開通により、CO_2 排出量が約６万t/年※削減します。※北海道開発局調べ

道の駅への急速ＥＶ充電施設設置
（道の駅「花ロードえにわ」）

国道２３０号　定山渓拡幅（札幌市）

●令和６年度　主な道路事業の概要

◎は令和６年度新規事業化

国道名	事　務　所	主　要　事　業
５号	札幌道路事務所	創成川通、札幌駅交通ターミナル整備、新川交差点改良
１２号	札幌道路事務所	道道札幌環状線交差点改良、道道江別恵庭線交差点改良、 ◎野幌末広町交差点改良、菊水電線共同溝、 白石中央電線共同溝、白石本通第二電線共同溝、 厚別中央電線共同溝、江別野幌町第二電線共同溝
	岩見沢道路事務所	峰延道路、町道１６号線交差点改良
	滝川道路事務所	江部乙付加車線整備、◎空知太西１条４丁目交差点改良
	深川道路事務所	稲田付加車線整備
３６号	札幌道路事務所	平岡３号線交差点改良
	千歳道路事務所	北栄路肩改良、◎輪厚中央通交差点改良
３８号	滝川道路事務所	道道芦別赤平線交差点改良
２３０号	札幌道路事務所	南１６条西交差点改良
２３３号	深川道路事務所	北光町交差点改良、道道沼田妹背牛線交差点改良
２３４号	岩見沢道路事務所	道道朝日桜丘線交差点改良
２７４号	千歳道路事務所	東２線南交差点改良
２７５号	札幌道路事務所	月形交差点改良
３３７号	札幌道路事務所	道央圏連絡道路「中樹林道路」【令和６年度開通予定】、「長沼南幌道路」 ◎道道札幌当別線交差点改良、◎新港南２丁目交差点改良
	千歳道路事務所	南幌路肩改良
４５２号	岩見沢道路事務所	盤の沢道路
４５３号	札幌道路事務所	石山東２交差点改良

令和６年度（開通予定）

道央圏連絡道路　中樹林道路

（直轄）

１．概　要

道央圏連絡道路中樹林道路は、道央自動車道江別東ＩＣと接続し、高速ネットワークの拡充による札幌圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び新千歳空港、苫小牧港等への物流の効率化等の支援を目的とした延長７．３ｋｍの地域高規格道路です。

２．計画内容

箇　　所　　名：北海道空知郡南幌町南１５線西
～北海道江別市江別太

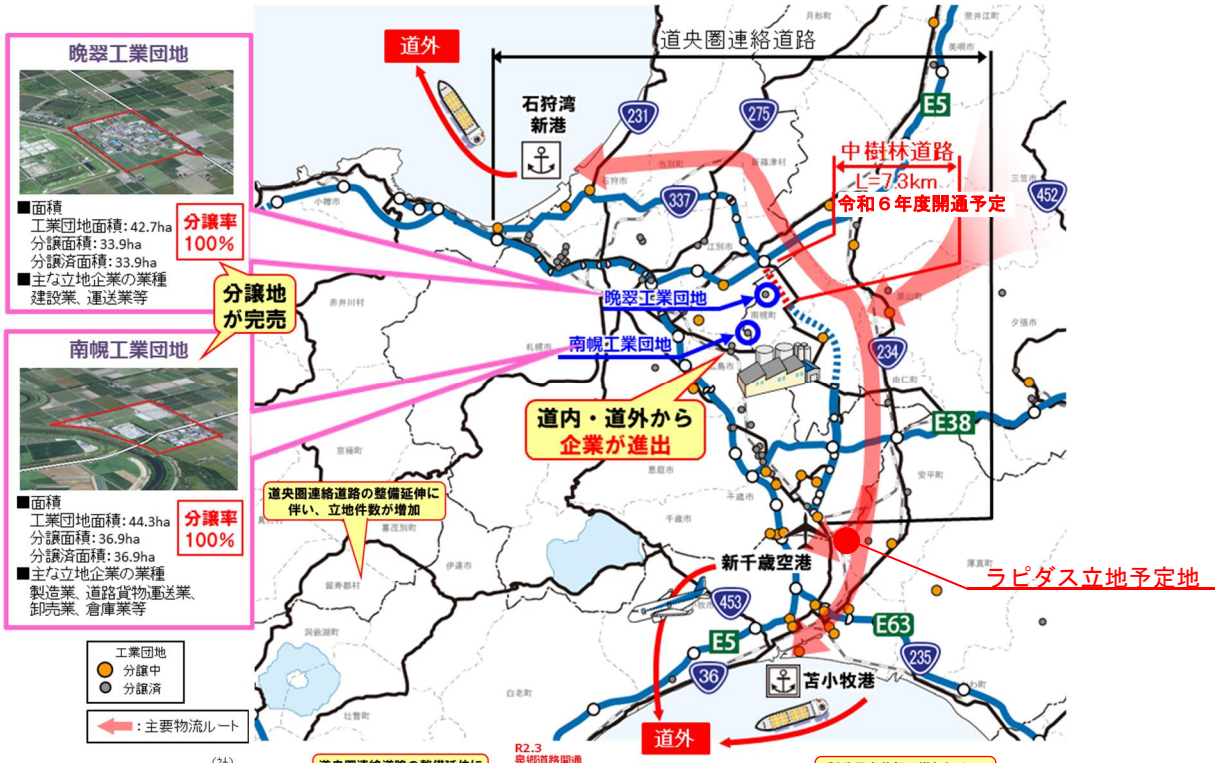
延　　長：７．３ｋｍ

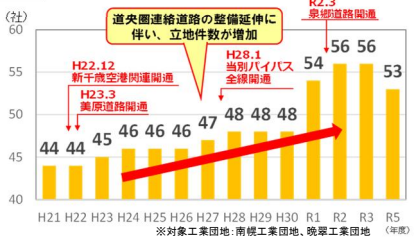
■道央圏連絡道路の重要性

道央圏連絡道路は、道央都市圏外縁に位置し新千歳空港と石狩湾新港を結ぶ、物流にとって重要な道路です。そのうち、中樹林道路は道央自動車道との接続部に位置する道路です。

▼企業立地の促進

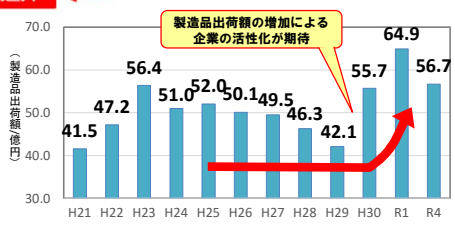
当該道路の整備により、沿線の工業団地と新千歳空港や石狩湾新港など物流拠点へのアクセスが向上し、企業立地の促進や新たな雇用の創出など、地域活性化が期待されます。





工業団地における企業立地件数の推移（南幌町）

出典：南幌町ヒアリング



製造品出荷額の推移（南幌町）

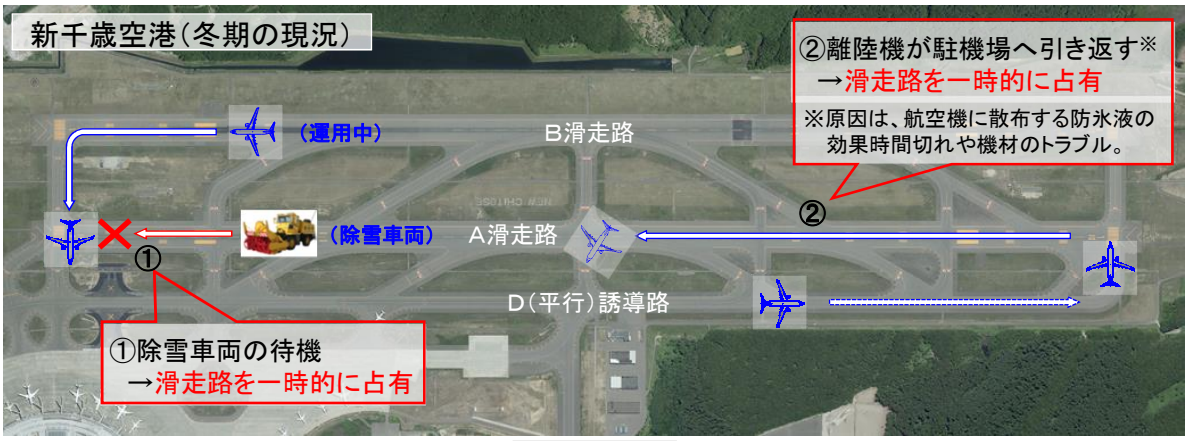
出典：北海道工業統計（北海道）

空　港　整　備　事　業

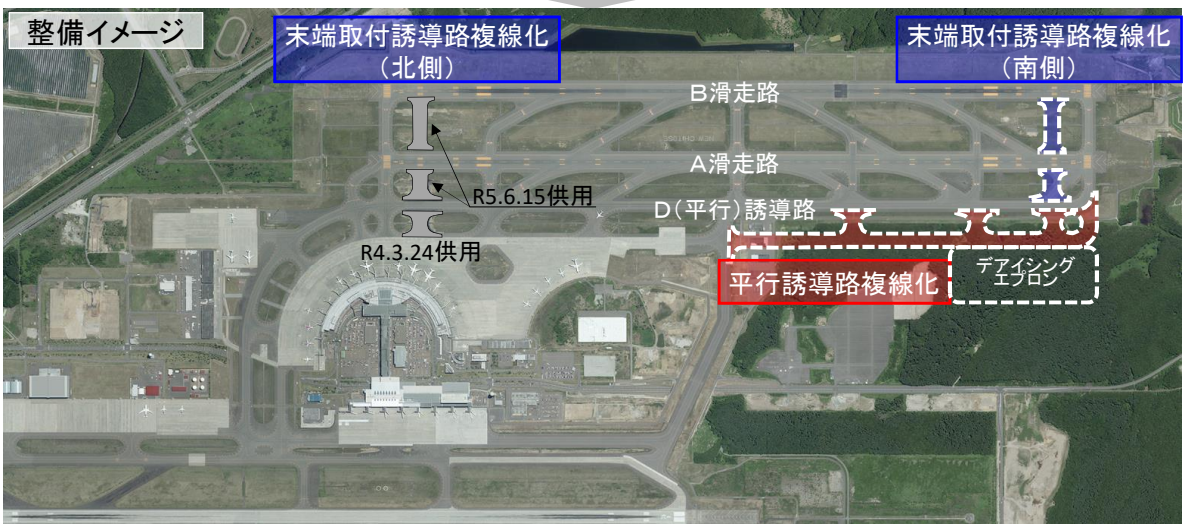
１．世界水準の観光地の形成

◯国内外の旅行者の受入環境整備（空港の受入機能強化：誘導路複線化等）

新千歳空港では、除雪作業や航空機のトラブル等による滑走路の一時的な占有に起因する遅延や欠航が課題となっていることから、誘導路の複線化事業等を推進し、航空機の安定運航を図り、国内外旅行者の受入環境の整備に取り組みます。



誘導路を複線化（新設）



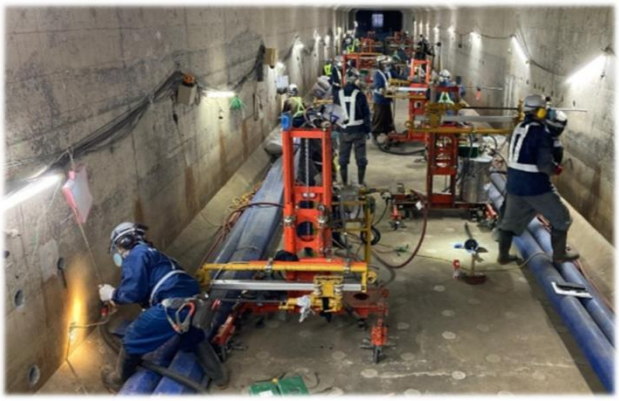
２．強靭で持続可能な国土の形成

～激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成～

◯地震の発生に備えた対策の推進（滑走路等の液状化対策、河川函渠の耐震補強等）

新千歳空港では、大規模地震災害時における緊急物資等の輸送拠点としての機能確保、航空ネットワーク及び背後圏の経済活動を維持するため、空港の防災・減災対策を推進します。

液状化対策による滑走路等の不陸防止



耐震補強による地下構造物の崩壊防止

令和６年度　国営公園事業（滝野すずらん丘陵公園）

◇広域レクリエーションの拠点となる大規模公園の運営維持管理

滝野すずらん丘陵公園は、四季折々、北海道ならではの豊かな自然を満喫できるよう、自然体験型観光や冬期も利用可能な広域レクリエーションなどのニーズに対応した公園を目指しています。

当公園は、平成２２年度に約４００ha全面を開園しており、「自然と人・人と人のふれあい」を基本テーマとして、多様なニーズに対応する四季を通じた利用促進を図るため、花フェスタ（チューリップ・すずらん等）、滝野スノーワールド、森の中で音楽やソリ遊びを楽しむ森フェス等の様々な野外レクリエーション活動を展開しながら、公園施設の修繕・更新、ヒグマの侵入防止対策、再生可能エネルギー施設整備等、適切な運営維持管理を行います。

また、様々なニーズに対応したイベントの開催、SNSを活用した動画による情報発信の充実、Wi-Fiスポットの提供、ＨＰ（４ヵ国語対応）による公園情報の提供、翻訳機等による公園案内を行い、外国人観光客にも快適・円滑に公園を楽しんでいただけるよう、受入環境の整備を推進します。

チューリップ・すずらんフェスタ

滝野スノーワールド（ファミリーゲレンデ）

野外レクリエーションイベント
（森フェス：ウィンター）

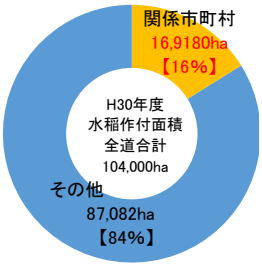
国営かんがい排水事業
北海地区（ほっかい）

1 地域の概要

- 石狩川中流域に拓けた稲作を中心とした農業地帯
- 水稲作付面積が全道1位と6位を受益とする「米どころ」
  （岩見沢市で「米-1グランプリ」を受賞）
- 北海地区の関係市町村で、約2万haの水稲を生産
  →全道の約2割を占める
- たまねぎ、はくさいなどは、野菜指定産地の指定を受け、道内有数の産地

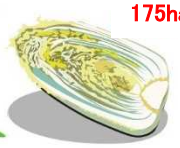
■水耕作付面積の全道ベスト5（H30年度）

■全道に占める割合



岩見沢市のたまねぎ
全道4位の作付面積(H30)
1,190ha

岩見沢市のはくさい
全道1位の作付面H30)
175ha



「米-1グランプリ」
でコメ日本一

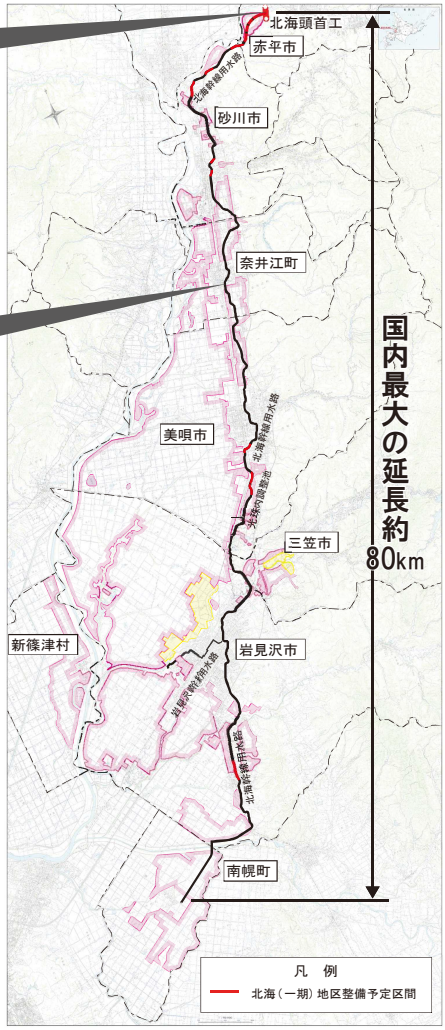
2 地域の現状と課題

- 国内最大規模の「北海頭首工」・「北海幹線用水路」が、地区内の水稲生産を支えている
- これらの既存施設は、築造後40年以上を経過する施設が約9割
- 5年以内に、ほぼ全ての施設の残存耐用年数がゼロ
- 積雪寒冷地に対応した構造となっておらず「水路倒壊」等のおそれ

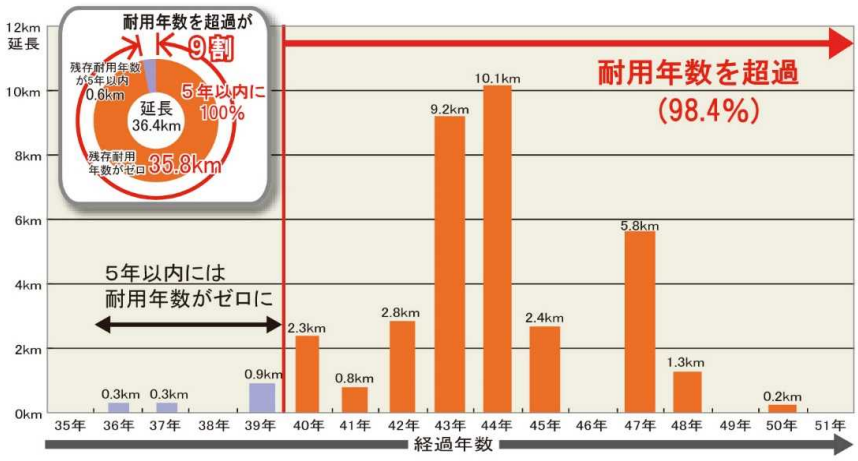
●最大取水量：44.56m³/s（国内最大級）

▲北海頭首工と北海幹線用水路の起点部

▲倒壊した北海幹線用水路



■北海幹線用水路及び岩見沢幹線用水路
既設使用区間の造成後経過年数（H25時点）



3 事業目的

北海地区の農業用用水施設は、老朽化・凍上等によるコンクリートの劣化が進行している。

また、北海幹線用水路は、長大な水路であるため、効率的な用水管理や施設管理に苦慮している。

このため、本事業では頭首工及び幹線用水路を整備し、農業用水の安定供給、維持管理の軽減、用水管理の効率化を図り、農業経営の安定と地域農業の振興に資するものである。

4 事業計画概要

受 益 面 積：27,002ha（田26,269ha、畑733ha）
関係市町村：岩見沢市、美唄市、赤平市、三笠市、砂川市、南幌町、奈井江町、新篠津村
受 益 戸 数：2,329戸
主 要 工 事：頭首工1カ所（部分改修）、用水路2条（L=36.4km）
主 要 作 物：水稲、小麦、大豆、たまねぎ、小豆、キャベツ、はくさい、花き
事 業 工 期：平成22年度～

5 老朽化状況と改修適期

▶ 施設機能診断調査の結果から、「北海頭首工」、「北海幹線用水路」の健全度評価（老朽度）として、Ⅳ～Ⅰランクに区分

▶ 緊急度の高いⅣランクから、随時、改修する工事工程計画を策定

■施設機能診断調査結果

▼北海頭首工

工 種	部 位	グレード
土砂吐	堰 柱	Ⅱ：要観察
	管理橋	Ⅱ：要観察
洪水吐	堰 柱	Ⅱ：要観察
護 床	エプロン	Ⅱ：要観察
取水口	―	Ⅲ―2：補強
護 岸	擁 壁	Ⅱ：要観測

北海地区で対応

▲北海頭首工・取水口

▼用水路

グレード	北海幹線用水路(km)	岩見沢幹線用水路(km)
Ⅳ ：改築	22.2	1.0
Ⅲ―2：補強	10.0	1.2
Ⅲ―1：補修	0.8	1.2
Ⅱ：要観察	―	―
Ⅰ：対策不要	―	―

※Ⅲ-2、Ⅲ-1は、経済比較の結果、最も有利となったⅣと同様の改築を行う。

北海地区で対応

▲凍上力・雪庇力の影響による傾倒

■緊急性・優先度・早期効果発現を踏まえて改修時期を設定

※施設毎の優先度：「北海頭首工」→「北海幹線用水路」→「岩見沢幹線用水路」
※施設内の優先度：「上流部→下流部」、「劣化グレード上位→下位」、「市街地→農地」を評価して順位付け

6 用水管理の向上

▶ 長大な用水路で広域につながっているため、水管理や土砂流入対策が必要 ⇒降雨時等の水利制御施設や土砂排出のための進入路の整備

▲土砂排出スロープの設置例

▲放余水工

▲水位調整施設

担当：北海道開発局 札幌開発建設部 岩見沢農業事務所 （TEL 0126-22-1760）

【国営施設応急対策事業】

新雨竜二期地区

しんうりゅうにき

～地域農業を支える基幹的農業水利施設の機能保全～

地域の農業

- 基幹産業である農業は、水稲が中心で野菜等を導入した経営が主体である。
- 「うりゅう米」は暑寒岳連峰の雪解け水、有機減農薬で栽培され、高品質な良質米生産に取り組んでいる。
- 水田の畑利用により生産している青果肉の暑寒メロンは甘みが深く人気を集めている。

地区が抱える課題

本地区は、国営土地改良事業（尾白利加：S28～S42、雨竜：S42～S48）により用排水施設が造成され、その後、国営新雨竜土地改良事業（H3～H18）で深水かんがい用水確保等が行われた。しかし、用排水路で水路の浮上や側壁の傾倒が発生する不測の事態が生じ、さらに一部施設では老朽化や凍害等による施設の性能低下がみられる。

× 幹線用水路及び幹線排水路で浮上や側壁が傾倒する不測の事態が発生

× ダム、頭首工、排水機、用・排水路の基幹的農業水利施設の性能低下が進行

不測の事態・劣化が進行することで
- × 突発事故等のリスク増大
- × 施設の維持管理費の増高
- × 構造的な安定性の低下

さらに
- × 用水不足による安定生産への支障
- × 排水不良による安定生産への支障

事業の目的

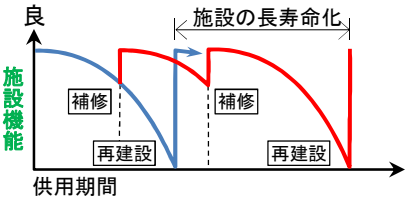
本事業では施設の機能を保全するための整備を行うことにより、農業用水の安定供給、排水機能の維持及び施設の維持管理の費用と労力の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定を図る。

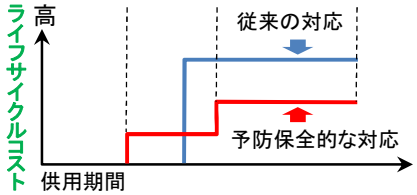
突発事故等対策

■ 突発事故等に対応し、施設機能を保全するための整備を行う。

長寿命化対策

■ 施設の機能保全を効率的に実施することで、施設の長寿命化を図りライフサイクルコストを低減





事業の実施で見込まれる効果

- ライフサイクルコストの低減
- 維持管理費の低減
- 用水の安定供給
- 排水機能の維持
- 作物生産性の維持
- 地域経済の維持
- 食料の安定供給

長寿命化対策

必要な対策を部分的に実施

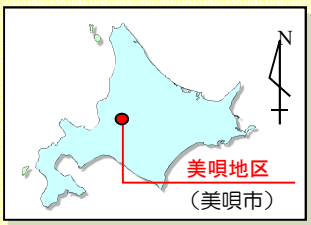
〔 突発事故等対策及び長寿命化対策を順次実施 〕

事業の概要

- 関　係　町: 北海道雨竜郡雨竜町・樺戸郡新十津川町（うりゅうぐん うりゅうちょう かばとぐん しんとつかわちょう）
- 事 業 着 手: 平成29年度
- 受 益 面 積: 2,763ha（田:2,741ha、畑22ha）
- 事業対象施設: ダム1箇所、頭首工1箇所、排水機2箇所、用水路2条 延長4.2km、排水路1条 延長0.2km
- 主 要 作 物: 水稲、そば、小麦、メロンほか

国営緊急農地再編整備事業

美唄地区



現　　状

本地区は、北海道の石狩平野のほぼ中央に位置し、石狩川の左岸に開けた水田地帯であり、水稲及び転作作物の小麦・大豆等の土地利用型作物を主体にたまねぎ等の野菜類を含めた稲作複合経営が進められている農業地帯である。

地区内では高齢化による農家数の減少に伴い個別経営の規模拡大が進む一方で農地の分散化が進んでいる。また、ほ場区画は狭小で、かつ、泥炭土壌に起因する泥濘（ぬかるみ）から機械化作業の効率を妨げているため、今後、更に農家数減少が見込まれる中で耕作放棄地発生の増加が危惧される状況となっている。

さらに、ほ場が排水不良のため、小麦・大豆などの収量や品質も不安定な状況にある。

小区画なほ場

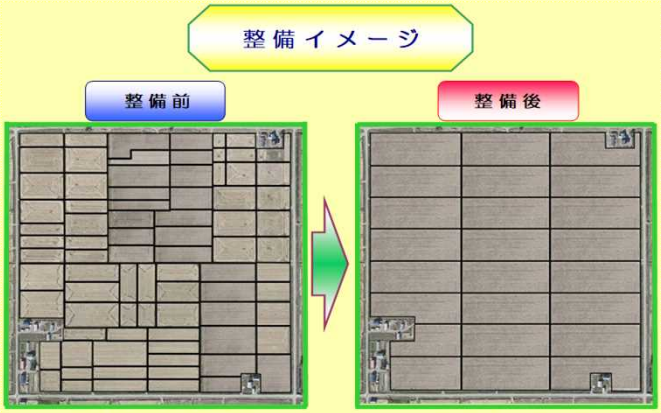
泥炭土壌に起因した排水不良なほ場

田越しの連続による不安定な水管理

事 業 目 的

本事業は、農家数の減少に伴う耕作放棄地の発生を未然に防止するため、水田を主体とする農地の区画整理を施行し、生産性の高い基盤の形成と土地利用の整序化を通じ、農業の振興を基幹とした地域の活性化に資することを目的とする。

本地区では、ほ場の大区画化等に併せて営農組合による共同作業や水稲直播栽培を核とした先進的営農技術の拡大を推進し、田畑輪換耕作による効率的な水田営農の確立を目指す。



現況ほ場平均面積
0.3ha～0.5ha

整備後ほ場面積
1.2ha

事 業 概 要

事業期間　：平成２５年度～
関係市町村：美唄市
地区面積　：１，８７４ｈａ
受益面積　：１，６８２ｈａ
受益戸数　：１３３戸
主要作物　：水稲、小麦、大豆、たまねぎ等
主な整備内容
　　：区画整理　　１，６８２ｈａ
　　：ほ場内用水路　１０１．６ｋｍ
　　：ほ場内排水路　　９４．９ｋｍ
　　：暗渠排水　　１，６４９ｈａ
　　：客土　　１，６４９ｈａ

JAびばい：利雪型カントリーエレベーター【雪蔵工房】
（雪を活用した環境に優しい低温保管で品質保持）

高生産性水田営農の実現による地域農業振興

○　国営緊急農地再編整備事業の実施により整地工、暗渠排水工、ほ場内の用・排水路工等を整備し、ほ場の大区画化・汎用化、併せて換地により農地集積。
○　地元関係機関を中心に農地利用集積、作業受託を促進するとともに、地下水位制御システムを活用した先進的な営農技術の導入により地域営農を構築。
○　事業実施と地域営農の構築により、水稲、小麦、大豆等の品質・収量の向上、営農の効率化を図り、高生産性水田営農を確立するとともに耕作放棄地の発生を防止。
○　労働時間の短縮に伴う余剰労力の活用により、地域ブランドづくりや都市農村交流を促進し、地域農業を６次産業化。

国営緊急農地再編整備事業の実施

◇整地工（大区画化）
◇暗渠排水工
◇客土工
◇ほ場内の用・排水路工
◇地下水制御システム
◇農道工
◇換地

地元関係機関（市、JA等）による地域営農の構築

◇農地利用集積円滑化事業団体を中心とする農地利用集積

◇麦作営農組合等による作業受託

◇先進的な営農技術の導入

ほ場の大区画化や作業受託による営農機械の大型化・汎用化

地下水位制御システムを活用した先進的営農技術の導入による品質の向上・収量の増加

換地や農地利用集積による営農の効率化、耕作放棄地の発生防止

先進的な営農技術の例

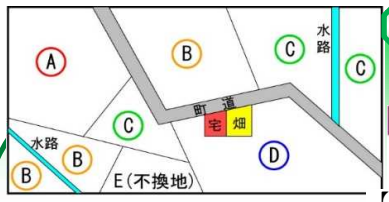
春播き小麦の初冬まき栽培
秋小麦の大豆間作栽培

・品質・収量の安定
・輪作体系の改善による収入安定

水稲の乾田直播栽培

・労働時間の短縮、生産コスト削減
・経営の大規模化に対応

換地のイメージ



【従前の土地】
（工事を行う前の土地）

【換地後の土地】
（工事後の新区画の土地）

高生産性水田営農の確立による食料自給率の向上

余剰労力の活用
労働時間の短縮

取組拡大

農業・農村の６次産業化

取組拡大

都市と農村との交流

JAと大学が連携した「稲作体験塾（農業体験）」を通じた食育を推進

地域ブランドづくり

美唄産こだわりの特産品

米粉を使用した製品

麺に春播き小麦
みそスープに大豆を使用

農産物の付加価値向上と地域ブランドの確立

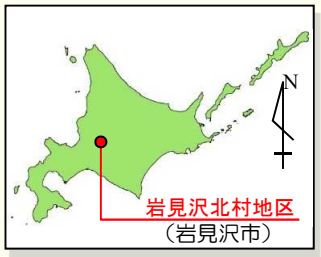
美唄地鶏『とりめし』

美唄名物『もつそば』

◇おにぎりを新たな美唄名物にして米どころPR「おにぎりプロジェクト」を展開
→小冊子「美唄おにぎり物語」を作成し、美唄市の基幹産業である米作りをPR（美唄青年会議所）

国営緊急農地再編整備事業

岩見沢北村地区



～ＩＣＴを活用した低コスト・高品質生産を実現する
未来につなぐ〝強い　いわみざわ農業〟の展開～

地区の概要

北海道第1位の水稲作付面積を誇る道内有数の穀倉地帯であり、食味が特に良好な「特Ａ」米の産地となっている。さらに、水田の転作作物として、小麦、大豆のほかはくさい等の野菜生産にも力を入れており、水稲を基幹とした複合経営が展開されている。

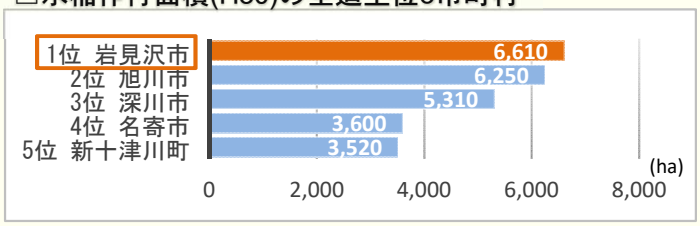
位　　置：北海道石狩平野のほぼ中央、石狩川左岸に広がる水田地帯
関係市町村：岩見沢市
受 益 面 積：1,393ha（田：1,360ha、畑：33ha）
主 要 作 物：水稲、小麦、大豆、はくさい、にんじん、かぼちゃ、キャベツ、ｽｲｰﾄｺｰﾝ

＜地区全景＞

「厳選された高品質米
”大地のこだわり情熱米”」

はくさい「地域ブランドである
”まるいわブランド”」
【全道一の作付面積】

□水稲作付面積(H30)の全道上位5市町村



地区農業の現状と課題

本地区は、農家数の減少により経営規模の拡大が進み、離農跡地の継承による経営耕地の分散化が進んでいる。また、農地は、平均区画が0.4haと小区画であり、泥炭土に起因した排水不良を呈していることから、農作業効率が悪く、農業生産性の向上を図るうえで支障を来している。

また、岩見沢市で普及推進を図っている農作業機械の自動走行等のスマート農業の導入による省力化・低コスト化が進められない状況にある。

加えて、排水不良と労働力不足から野菜の増産が進まない状態となっている。

このため、現状の基盤のままでは今後、耕作放棄地が広域的に発生するおそれがあり、大区画化等の基盤整備が急務な状況となっている。

岩見沢北村地区の事業構想

■地区の生産基盤状況

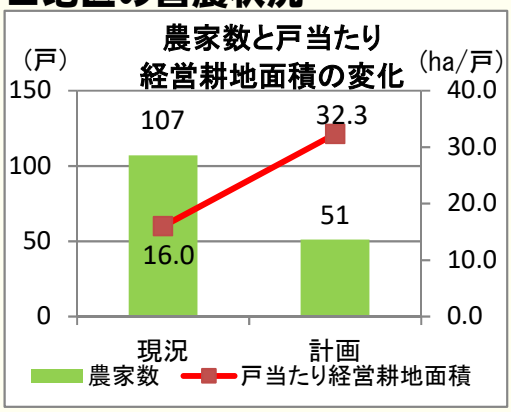
「0.5ha未満の小区画ほ場が9割を占める」

「泥炭土壌に起因した排水不良が生じている」

- □小区画なほ場
- □排水不良
- □経営耕地が分散化（最大12団地に分散）

耕作放棄地増加の懸念

■地区の営農状況



「将来（約15年後）には、平均で30ha/戸規模に」

国営緊急農地再編整備事業の実施

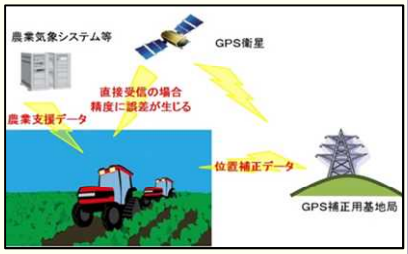
ほ場の大区画化や排水改良による基盤整備と換地処分による担い手への農地集積を進め、耕作放棄地の発生を未然に防ぎ、農地の引き受け手である担い手が大規模な経営や高収益作物の生産を拡大できる土台を形成

・ほ場の大区画化(0.4ha区画→2.4ha区画)　・排水不良の解消
・水管理の合理化　・担い手農家への農地集積

＜現況のほ場＞　＜整備後のほ場＞

生産現場：ICT活用によるスマート農業の取組

○岩見沢市により高精度測位情報の配信が可能なRTK-GPS基地局を設置
○自動操舵システム等の導入によるスマート農業の推進



【GPSレベラー】【GPSガイダンス及び自動操舵システム】　【GPS位置データを活用】

担い手：農作業請負体制の構築

○既存の機械共同利用組合の取組拡大による農作業請負体制の育成
○共同作業体により集落単位での農作業の受託を行う生産システム化を進める

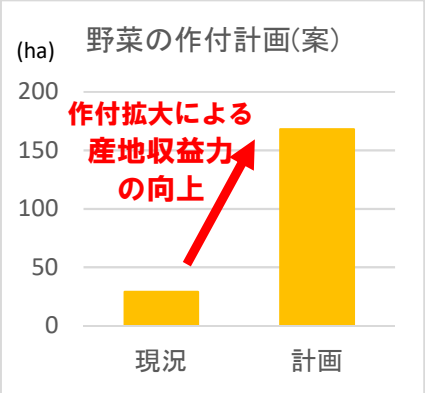
【小麦収穫における共同作業】

生産・加工・流通：野菜類を組み入れた複合経営の確立

○まるいわブランド（野菜類）を全国各地の市場・量販店へ出荷
○生産履歴やGAPの取組みによる肥料・農薬の適正使用のチェック

経営規模及び高収益作物の拡大によって農業所得の増加・産地形成の強化

■共同作業体による農作業受託体制を構築し、労働力の軽減を図ることで「まるいわブランド」（野菜類）の生産拡大を図り、農業所得を向上



■ほ場の大区画化とともにスマート農業に取り組むことで農作業を最大限に省力化し、農作業時間縮減及び労働負荷軽減【米生産コストの低減】

■農家グループによる加工品開発などの付加価値向上に向けた取組を推進

【北の大地マルシェ】（直売施設）

（国営総合農地防災事業）

雨竜川下流地区

～農作物の安定した生産のために～

【地域の概要】

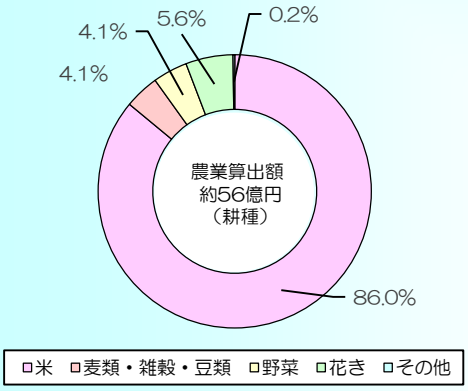
本地区は、北海道雨竜郡妹背牛町及び秩父別町に位置する農業地帯であり、水稲を主体に水田の畑利用による畑作物、野菜類及び花きを組み合わせた営農が展開されている。

地域農業は、水稲の算出額割合が86%と高く、北海道で生産される米の約4%を占めている。生産された米は各町が所有する低温貯留乾燥調整施設で保管され、地域ブランド米（妹背牛町「北彩香」、秩父別町「いなほの鐘」）として、道内外に販売されている。

また、農商工連携により「ちっぷべつ緑のナポリタン」を販売し、地域の発展に寄与している。

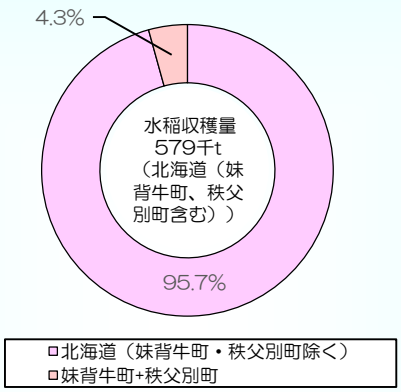
《地域の農業の状況》

≪２町の農業産出額割合≫



出典：平成27年市町村別農業算出額（推計）

≪北海道における２町の水稲収穫量割合≫



出典：平成28年作況調査

「特Ａランク」のブランド米

＜地域ブランド米（北彩香、いなほの鐘）＞

《農商工連携による地域の発展》

＜ちっぷべつ緑のナポリタン＞

特産品であるブロッコリー等を活かした「ご当地グルメ」や「加工食品」を開発。農商工連携により、原材料の生産、加工、飲食店での提供までを地域で完結させることにより、地域農業の収益力の向上を図っている。

【地区の課題】

本地区の基幹的農業水利施設である八丁目頭首工は、洪水等の自然的状況の変化に起因する河床洗掘の進行により、浸透路長が不足し、施設の機能が低下していることから、頭首工の転倒によって農作物、農地等への災害のおそれが広域的に生じている。

■河床洗掘による頭首工の安全性低下

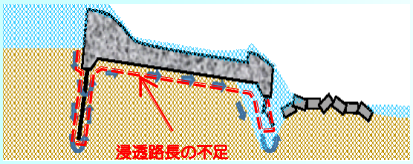
年度	八丁目頭首工 計画高水流量	
昭和40年	2,200m³/s	八丁目頭首工造成時
↓		
平成19年	2,500m³/s	計画高水流量の変更

頭首工の安全性が不足

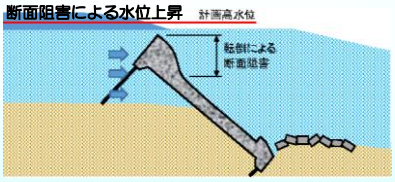
平成14年撮影

令和３年撮影

■八丁目頭首工の用水供給の停止、広域的な災害のおそれ



・河床洗掘により、下流側護床工が低下し、浸透路長が不足
・浸透路長の不足に伴うパイピングによる固定堰転倒の懸念



・固定堰の転倒にともない、用水供給の停止に加え、河川堤防が破堤した場合、広域的な災害が発生するおそれ

【事業の効果】

八丁目頭首工等の改修を行い、頭首工の施設機能を回復することにより、農作物、農地等の広域的な災害を未然に防止し、農業生産の維持及び農業経営の安定を図る。

頭首工等の改修 →

農業生産の維持 →

【地区の概要】

◎関係市町村　：雨竜郡妹背牛町、同郡秩父別町
◎受益面積　　：829ha
◎受益戸数　　：58戸
◎主要工事計画：頭首工（改修）１カ所、揚水機（改修）１カ所、導水路（改修）１条 L=2.5km
◎工期　　：H29 ～
◎主要作物　　：水稲、小麦、大豆、ブロッコリー、花き(スターチス)